

「子ども支援団体等緊急支援基金」の選考結果について

1 応募状況

- (1) 募集期間 2020年5月12日(火)～2020年5月18日(月)
- (2) 応募総数 202件
- (3) 地域別件数

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州・沖縄	合計
応募件数	4	24	77	32	32	16	17	202

2 審査委員会

- (1) 開催日
2020年6月2日(火)
- (2) 審査方法
第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員による下記の審査基準に基づく書類選考を行いました。
- (3) 審査委員

委員長	山岡 義典	法政大学名誉教授、助成財団センター 理事長・代表理事
委員	小河 光治	公益財団法人あすのば 代表理事
委員	岸本 幸子	公益財団法人パブリックリソース財団 専務理事・代表理事

(4) 審査基準

審査の視点
●子どもと家族に対するケアに取り組んだ活動実績があるか
●新型コロナウイルス感染症の流行に伴い必要となるニーズに対して応える事業内容であるか
●困難な状況下にある子どもや家庭に支援が確実に届く事業内容であるか
●事業の緊急性が高いか
●事業が適切に計画されているか
●組織全体は適切に経営されているか

3 審査結果

審査委員会による厳正な審査の結果、**15 団体**が助成対象先として選定されました。

4 助成総額

11,294,400 円

5 採択団体及び助成金額等

◆目的（1） 子ども支援団体が、コロナウイルス感染症流行への対応として、新たな子どもケアなど事業拡充をする際に必要な資金支援 … 採択 12 団体

No.	団体名	地域	申請事業名	助成金額 (円)
1	NPO 法人 キッズドア	東京都 中央区	お弁当プロジェクト	1,000,000
2	NPO 法人 NPO 亀岡人権交流センター	京都府 亀岡市	誰も置きざりにしない！包括連携によるハイリスク児童への伴走型支援事業	1,000,000
3	認定 NPO 法人 フリースペースたまりば	神奈川県 川崎市	安定した食支援を実現するための環境整備事業	1,000,000
4	NPO 法人 おてらおやつクラブ	奈良県 磯城郡	困窮するひとり親家庭（直接支援事業）及び貧困支援団体への物資配給事業の拡充	835,200
5	認定 NPO 法人 アトピッ子地球の子ネットワーク	東京都 新宿区	食物アレルギーの赤ちゃん応援プロジェクト	900,000
6	認定 NPO 法人 とりで	山口県 岩国市	こども宅食を軸としたアウトリーチ事業	720,000
7	NPO 法人 リトルワンズ	東京都 杉並区	母子家庭乳幼児のための緊急支援事業	800,000
8	NPO 法人 こどもプロジェクト	東京都 杉並区	東京都西部の子ども食堂・パントリー推進事業	800,000
9	わたぼうし教室	神奈川県 横浜市	オンラインによる学習支援事業	700,000
10	公益財団法人 住吉隣保事業推進協会	大阪府 大阪市	寿こども料理食堂	602,000

11	NPO 法人 U.grandma Japan	愛媛県 宇和島市	ひとり親家庭および新型コロナウイルスにより貧困となる子ども達への配食とフードパントリーの運営	500,000
12	一般社団法人 フードバンクいしのまき	宮城県 石巻市	家計負担軽減のためのフードバンク食品の緊急食糧支援	440,000

◆目的（２） 子ども支援団体が、ファンドレイジングの機会減少等による資金不足によって、今後のサービス提供の継続が困難になっている場合の緊急支援 … 採択 3 団体

No.	団体名	地域	申請事業名	助成金額 (円)
1	NPO 法人 DV 対策センター	神奈川県 横浜市	シェルター提供支援の拡充	1,000,000
2	NPO 法人 希望の光	愛知県 豊田市	ブラジル人学校運営就学継続支援事業	497,200
3	NPO 法人 アフリカヘリテイジコミティー	神奈川県 相模原市	ノヴィーニェこども食堂&こども寺子屋	500,000

6 審査総評

別紙（次項）のとおり

新型コロナウイルス感染症に関する「子ども支援団体等緊急支援基金」の審査を終えて

2020年6月2日

審査委員長 山岡義典

[審査の結果]

表記の助成に関し、本日2時からZOOMによる審査会を開催した。その結果、全国各地から寄せられた想像を遥かに超える202団体の中から、15団体に助成することになった。助成総額は11,294,400円である。採択率7%という厳しい結果で、採択に至らなかった187もの団体の皆さんには、本当に申し訳なく思う。

応募締め切りが5月18日で2週間足らずのスピード審査だったが、可能な限りの慎重な努力を重ねてきたので、ご了承いただきたい。

[審査の過程]

ここで審査過程について少し詳しく報告しておきたい。まず予備審査だが、事務局スタッフ2名が全応募について読み込み、応募要項に提示した6つの審査基準に対して1~4点評価を行い、総合的な判断を行った。その上で2人の評価を集計し、評点の高い順に25団体を本審査会に送ることにした。

本審査では、予備審査通過の25団体について3人の審査員が事前に応募内容を精査し、予備審査と同じ方法で評価した結果をもとに一つ一つの内容を議論した。すべての委員がAをつけた団体もいくつかあり、またすべてCの団体もあったが、多くは評価が分かれ、AとCが混在するものもかなりあった。助成原資の制約から11団体を目途に審査を進めたが15団体以内に絞ることが難しく、心は痛むが応募額の減額をお願いすることにした。満額助成の団体もあるが、多くは評価の視点を踏まえて応募の0.9~0.5に減額した。不足分は、この助成をテコにして資金集めに励んでいただければと思う。

[助成対象の特徴]

今回の助成では、要項に2つの目的を提示している。一つは「子ども支援団体が、新型コロナウイルス感染症流行への対応として、新たな子どもケアなど事業拡充をする際に必要な資金支援」、他の一つは「子ども支援団体が、ファンドレイジングの機会減少等による資金不足によって、今後のサービス提供の継続が困難になっている場合への緊急支援」である。前者の応募が圧倒的に多く176団体、後者の応募は少なく26団体だった。この応募数を反映して、助成対象も前者が12団体、後者が3団体となっている。前者のなかでも特に目についたのは、子ども食堂に代わるさまざまな食の提供に関する工夫である。

事務所所在地の分布では、東京都と神奈川県が各4団体、合わせて8団体で半数を超える。もとも早くから市民活動の発展した地域で、様々な課題をもつ子どもたちを支援する団体の蓄積も大きい。それらが夫々の専門性を生かして取り組む活動には、緊急時に貴重な役割を果たすものが多かった。他に近畿圏をはじめ7都市の団体が各地に分布する。特に地域内外の諸組織とのネットワ

ークを生かした取り組みが、高く評価されることになった。

[今後に向けて]

応募書類が作成された時期は、一部の府県で緊急事態宣言が解除された前後である。審査を行ったのは、東京も含めて全都道府県で宣言解除され、2か月遅れで子どもたちが学校に通い始めた時期である。短い時差ではあるが、応募者と審査員では子どもたちの課題に対する意識には微妙なズレがあったかもしれない。さらに今後は、そのズレが大きくなる。在宅の自粛が緩み、学校給食が始まり、子ども食堂も再開されると、市民活動が担う内容も変わってくる。オンライン頼りは、オフラインの喜びに代わってくるに違いない。

今回助成を受けられた団体の活動にも、思いがけない影響が現れるだろう。その時には、遠慮なく応募の企画内容を見直し、新しい方向に向かってほしい。限られた助成金ではあるが、それが最も有効に活用されることを望んでいる。必要なら、いつでも事務局に相談いただきたい。

今回は残念ながら採択に至らなかった多くの団体も、それぞれの地域のそれぞれの変化を見据えつつ、独自の活動に取り組んでいただきたい。きっとまた、よき助成を受けられる機会もあるのではないかと思う。

以上